

対象	小学校 2 学年
教科	生活科
該当 単元	〈小学 2 年〉 「もっとなかよし まちたんけん」 ・ まちの人に 会いに行こう ・ もっとまちの人と なかよくなるろう
教科書	東京書籍等
掲載日	2014. 6. 17. 夕刊 E 版 13 面

47歳の新人 人情路線

ぼそぼそと小さい声。そんなイメージが強い路線バスの車内放送にも、乗客への気配りを忘れない運転手が、愛知県長久手市の名鉄バス名古屋営業所にいる。乗務員

歴1年の吉井秀雄さん(47)。各地でバスをめぐる不祥事や事故が続く中、オールドルーキーが掛ける臨機応変なひと声は「人情味がある」と好評だ。(斎藤雄介)

名鉄バス乗務1年



乗客へ掛けるひと声に心を砕く吉井秀雄さん。愛知県長久手市で

「暗くなつてまいります。お気を付けてお帰りください」。日中に乗った主婦には「日差しが強くなり、日傘などの忘れ物が多くなっております」。状況に応じて、車内に聞こえるようにはっきりとした口調で言う。

「ここに入れてね」十一日夕、名古屋市中東区の藤が丘駅前。車外まで聞こえる吉井さんの声に、三歳ぐらいの女の子が腕をいっぱい伸ばした。チャリン。運賃箱が鳴ると、吉井さんは「よくできました」と手をたたき、女の子はにっこり笑い、降り口からびよんと飛び降りた。夜に女性が降りる時には

気配り案内にファンも

名古屋市の長久手市などの路線で、一人で乗務に就くようになって一年。回送で走る時にも街の様子を観察しながら案内の内容を考え、レパートリーも増えた。次の目標は「水でいっぱいのコップを載せても、こぼれないようなブレーキ操作」。乗客に寄り添って一歩ずつ、ステップを上

り、車内事故への注意を促したりする程度。吉井さんは「数日に一度は同じお客さまと会う。コミュニケーションを取るのには普通だと思っんですけどね」と、独自のアレンジを加える。昨年四月、愛知県内の金属加工会社から四十六歳で転職した。相次ぐ同業者の廃業や海外移転に、将来への不安を感じたからだ。「なくならない仕事を」と選んだのがこの職業。子どももこのころ、当たり前のように乗客と会話を交わしていた優しい運転手の姿が、頭の中にある。

理想を追う姿勢に、ファンもできた。声が裏返った時には女子大生があめ玉をくれたり、年配の女性がコーヒートを差し入れてくれたり。名古屋市中区の主婦児島俊子さん(56)は、「他人に無関心になりがちな時代だけに、心遣いにほっとする」と感心する。

問1：このしゃしんの人のしごとは、なんでしょう。

()

問2：この人は、小さい子がうでをいっぱいのにのぼして、りょうきんばこにお金をいれると、どうしますか。

()とって()

問3：この人の、次のもくひょうはなんでしょう。

発展：あなたは、まちの人に会ったら、どうしたいですか。クラスのおともだちと話してみましよう。